

平成 28 年度 学校自己評価システムシート (県立羽生第一高等学校) e16

目指す学校像	教育活動全般を通して「自主・自律 求めて強き風に立つ」の精神のもと、何事にも積極的に挑戦する生徒を育成する。
--------	--

重点目標	1 生徒一人ひとりの学力の向上を目指し、より高いレベルの進路実現を図る。 2 家庭と連携して、規範意識の醸成に努めるとともに、不屈の精神を育てる。 3 開かれた学校づくりを推進し、生徒募集に繋げる。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<p>本年度「一高 CG プロジェクト」は、実質3年目を迎え、一層の充実・前進と進学実績が求められ、生徒や保護者にも主旨やその取組を伝え、協力を求める必要がある。また、家庭学習時間確保については、初期の学習指導が必須である。本年度は、1年生全員に時間管理ができる手帳を導入し、2年・3年特進クラスと併せて、学習習慣をつける指導を強化する。2・3年総進クラスにおいても自宅学習記録表を十分に活用し、家庭学習時間を増加させることが課題である。</p> <p>引き続き授業改善を進め、「分かる授業・考える授業・学び合う授業」を実施する。教員の授業力向上については、生徒が主体的に取り組む授業を展開するとともに互見授業週間の充実・効果的な取組の共有化を進める。そして一層のアクティブ・ラーニングの導入を進め、『学び』推進委員も各教科に広げていく。</p>	<p>1 「CGプロジェクト」を進路指導の柱として、学習意欲と学力向上の環境を醸成する。</p> <p>2 生徒が主体的に取り組む授業づくりを行い、効果的な取組を共有する。</p>	<p>1-1NIE の継続・カタリバの活用・視野を広げる講演会等、生徒に積極的に取り組ませる。また、本校の取組を生徒・保護者に伝え協力を求める。</p> <p>1-2「学習手帳」「家庭学習記録表」を100%活用し家庭学習時間を増やす。</p> <p>2-1 わかる授業・考える授業・学び合う授業を実践する。</p> <p>2-2 生徒が主体的に取り組む授業づくりについて教科内研修を2回以上実施する。</p>	<p>1-1 生徒の感想の変化 外部との連携数が昨年を上回ったか。生徒・保護者が「CGプロジェクト」を理解し協力を得られたか。 (「学校評価アンケート」認知度 50%に) 1-2 勉強時間の増加につながったか。 (「家庭学習1時間以上」を50%に)</p> <p>2-1 授業アンケートの数値を評価とする。 (「分かりやすい授業を行っている」を80%以上に) 2-2 教科内研修をもとに、授業力向上についての全体研修を開催する。</p>	<p>改善度は進んだが次年度も継続。1-1 外部との連携は13回(昨年9回)多くの学びの場を提供できた。NIE では「学校奨励賞」を受賞2年連続となった。CG 認知度は、生徒 31.7%、保護者 46.1%であった。1-2 学習手帳は改良し来年度全校導入が決まった。家庭学習1時間以上は、25%に止まった。2-1「分かりやすい授業」70.8%、満足度は80.6%であった。2-2「学び」推進委員7名、11月に公開授業、研究協議を実施。</p>	B	<p>1-1「CGプロジェクト」の指定は終了するが、新学習指導要領を先取りして「総合的な学習の時間」を活用した「キャリア教育」の充実を図る。そのために、学力向上委員会・特進委員会・CG委員会を合併して「一高『学び』の改革委員会」を新設。1-2 改善された学習手帳を活用して粘り強く、家庭学習時間の充実を図るように指導する。</p> <p>2-1 本年度、授業評価アンケートの提出率は大幅に増加した。フィードバックした個人表を分析させ、教科で対策を立て、対応させる。2-2 引き続き「学び」推進委員を増やし、新しい指導法の充実を図る。</p>
2	<p>身だしなみのルーズな面が依然見られる。昨年度のアンケートによると、特に約15%の生徒が、制服をしっかり着用できないと自覚しており、しっかりした着用を目指す必要がある。乱れの影響等を具体的に生徒へ提示することで「一高規準」の確立に努めることが課題である。</p> <p>学校時間中心の生活を進めるために1年当初指導に重点を置く。また、1年生については当初所属の部活動を退部しても次の部活動に所属させる指導を徹底する。ボランティアについては、参加生徒のすそ野を広げていく。</p>	<p>1 日常的に、服装の乱れの影響等を生徒に伝え、「一高規準の規範意識」を身につけさせる。</p> <p>2 自信ある行動がとれるよう、学習の他にもう一つ活動の場を設けさせる。</p>	<p>1-1 学校全体の共通理解を図り、生徒指導を統一して行う。 ・「一高規準の規範意識(挨拶の励行・交通ルールの遵守等)」 ・「一高規準の身だしなみ(制服の着用・スカート丈等)」 ・「一高規準の授業規律(チャイム着席・スマホ使用等)」を指導する。</p> <p>2-1 生徒に、部活動・ボランティア活動・生徒会活動・各委員会活動等に継続的に参加させ、多くの生徒を動かすことで達成感を味あわせる。</p>	<p>1-1 評価アンケートの数値 ・保護者アンケートの数値について 子どもの身だしなみに80%以上が満足しているか。 ・制服の着用について意識変化が80%以上あったか。 (「制服をしっかり着ている」が90%以上に) ・スマホに関する指導を「0」にする。</p> <p>2-1 評価アンケートの数値 ・「学習以外の取組での達成度80%」が半数を超えたか。</p>	<p>改善の兆し。「一高規準」は、継続。 1-1 保護者は、92.5%が身だしなみに満足。生徒78.8%が制服をしっかり着用と回答。 2-1 学習以外の取組達成度は、64.5%。ボランティア参加者は198名(昨年142名)と増加。</p>	B	<p>1-1 整容指導については保護者の全面的な協力が必要である。保護者と生徒との制服着用に関するギャップを埋めていくことが課題である。</p> <p>2-1 ボランティアの参加者は年々増加しているが、運動部への参加率が下がっている。1年間を通して、部員の減少する時期を調査し、効果的なアドバイスができるよう研究することが重要である。</p>
3	<p>中学校や学習塾との連携を図り、本校の特長をアピールしている。また、羽生市等で行われる行事にも参加し、地域に根ざした進学校としての学校づくりを推進していく。学校説明会参加者は一昨年より7%増えたが、受検者数に繋がらなかったため、広報活動を一層充実させ、学校の学力向上の取組と「素直で、真面目で、頑張る一高生」の姿を積極的に発信する必要がある。</p>	<p>1 学校の広報メディアを一層活用し、情報発信を増やす。</p> <p>2 HP・学校案内・学校説明会をリニューアルし、より効果あるものにし、受検者を増やす。</p>	<p>1-1 HPの更新や県立学校ニュース、マスメディアへの投稿等、情報発信を強化する。 1-2 学習塾等の訪問、説明会を積極的に活用する。</p> <p>2-1「主役は生徒。生徒を見せる。」をテーマに学校説明会を企画する。 2-2 勉強と部活動の両立に取り組む生徒達や「CGプロジェクト」に取り組む生徒達を核にして情報を発信する。</p>	<p>1-1 HP更新ゼロの項目をなくし、1日のアクセス数が昨年平均(1,039回)を上回る。年間10回新聞等へ取り上げてもらう。 1-2 学習塾からの情報を活用し、受検者数を増加させる。</p> <p>2-1 学校説明会参加者の10%増加。</p> <p>2-2 平成29年度の受検倍率が1.10倍になったか。</p>	<p>概ね達成。生徒募集は継続1-1HP・学校案内・学校説明会をリニューアル。HP更新回数219回、メディア登場回数8回アクセス数1日平均1064回。2-1・2学校説明会参加者1339名6%増。受検倍率1.13倍</p>	A	<p>1-1 広報活動は、順調に進んでいる。HPや学校案内は、今後も毎年少しずつリニューアルを加えていく。 2-1 学校説明会では、来年度はもう少し生徒を巻き込んで、進行にも生徒を参加させる。2-2 生徒の活躍を見せることで生徒募集を一層充実させていく。</p>

学校関係者評価
実施日 平成29年2月10日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p><評議員より> ・学校がこれほどまで生徒に働きかけをしてくれているのに驚いている。地元の人から「羽一は変わったね」という声を聴くようになった。 ・目標が決まると自然と勉強するようになる。目標ができるような仕掛けを作っているのが今後も続けてほしい。 ・家庭学習は、進路が決まってくると自然と学習時間が増加する。 ・先生方がたくさん働きかけているので、生徒会には、もっと広めてもらいたい。生徒が団体に動くようになれば、一高に加速度がつく。</p> <p><懇話会委員・生徒より> ・「第一志望マニフェスト」を書いて目標が決まった。少しずつではあるが、その時から自然と家庭学習時間が増えてきた。 ・進路を羽一高に決めた時、周囲の友人から「なんで」と聞かれた。入学してみるとイメージが全く違った。</p>
<p><評議員より> ・「羽一は変わった」と街中でも聞くようになった。ボランティア等でいろいろと生徒が街に出ていくのはよいことである。この流れを大きくしてほしい。 ・「文武不岐」の言葉通り、堅実に努力しているのを感じる。 ・学校生活の満足度が上がり、自分に自信が持てるようになれば、服装等に変化が現れる。現在の指導は継続してほしい。 ・保護者へも、細かく教育・説明をしてより協力を要請すべきである。</p>
<p><評議員より> ・HP・ボランティア活動・学年通信等の情報提供で中学校へも影響が出ている。羽生市全体の教育力をあげる中心になってほしい。 ・現在は、保護者の意見で進路が決まるようなところがある。保護者の影響力が強いので、羽一の魅力を保護者へもっとアピールしてほしい。</p>